

いなむら市長の「い~なこの街 尼崎」 3月

テーマ:平成 25 年度はこう変わります

DJ(林)

さて、今回は、「平成 25 年度はこう変わります」と題してお話をうかがいたいと思います。いよいよ年度末ですね、新年度に向けて、入学や入社、引越など、新しい生活へのご準備をされている方もたくさんいらっしゃると思います。

市長

はい。なんだかね、気持ちが改まる、そんな季節ですよ。

DJ(林)

市役所の新年度に向けてのご準備はいかがですか？

市長

はい。今週は、職員の人事異動の発表もありまして、異動する職員は、色々ね、準備が大変な、そんな時期です。

DJ(林)

そうですね。新しい職員の皆さんも入ってこられますよね。

市長

はい。そうなんです。今の尼崎市はね、やっぱりチャレンジ精神が求められていますので、また新しい風をたくさん吹き込んでもらいたいなと思っています。

DJ(林)

はい。さて、平成 25 年度、市では大きな計画がスタートするとお聞きしましたが。

市長

そうなんです。これからの 10 年間のまちづくりの基本方向を定めています、まあ、一番もとになるまちづくりの基本計画、総合計画と私たち、読んでいるんですけども、いよいよ 25 年度からスタートをします。キャッチフレーズが決まりまして、「ひと咲き まち咲き あまがさき」というキャッチフレーズです。多くの市民の人たちがこの街で成長しながら、学びながら、そして、そういった力が合わさって今度はまちが大きく花開いていく、そして最後は花をつけ、実をつけ、種を落としてそれが次の世代にまた受け継がれていく、そういう未来に向けたまちづくりをしっかりとやっていく 10 年間という思いで、このキャッチフレーズ、公募でね、多くの方から応募いただいた中から選ばせていただきました。

DJ(林)

そうなんですか。夢がありますよね。

市長

はい。これは市民の皆さまや市議会の方からもご意見を頂いて、将来の「ありたいまち」というのを4つに整理をしています。一つ目は、「人が育ち互いに支えあうまち」、二つ目が「健康、安全・安心を実感できるまち」、三つ目が「地域の資源を活かし、活力が生まれるまち」、そして四つ目に「次の世代に、よりよい明日をつないでいくまち」、この「ありたいまち」に向けて、これから10年間、色々な施策を展開をしていきます。

それともう一つ、これと双子になる計画というふうに言っているんですけども、こういったまちづくりを支える行財政改革計画「あまがさき『未来へつなぐ』プロジェクト」も同じく10年間の計画で、25年度、スタートを切ることになっています。何といたってもやはり持続可能な財政基盤、行財政運営の基礎がやっぱりすごく大事になってきますので、景気の波、色々ありますし、これから少子化、高齢化が進んでいく社会ですけども、そういったことを見据えて、しっかりと、強い体質のまちづくりをしていきたいということで、行革も合わせて進めていきます。

DJ(林)

この2つの計画のスタートとなる25年度、予算を組むのにあたっては、どのような狙いで取り組まれたのでしょうか。

市長

はい。さきほどご紹介しました、この将来の「ありたいまち」に向けて、今、尼崎市でどういうことに重点的に取り組むべきか、こういうのを重点化項目として定めているんですけども、そういった項目に沿って、政策をいくつかおいていますのと、これまで尼崎市はどちらかと言うとダイエットといいますかね、体を絞る改革、色々なサービスを見直すことをやってきたんですけども、これからは第二ステージということで、今度は質の改革といいますか、将来に向けて体質を変えていくためのそういったところにちゃんと予算をつけていこうという、将来を見据えた未来志向型予算というふうに私自身は思っています。

DJ(林)

はい。では、具体的にいくつか事業をご紹介いただきたいのですが、私は、未来の尼っこを育む、教育、そして子育ての分野がとても気になります。特に学力の向上につながるような取り組みはありますか。

市長

はい。そうなんです。こういう「ありたいまち」に近づいていく、またまちを活性化していくためにも、できれば、子育てファミリー世帯の方に「尼崎も住んでみたいな」、「もっと住み続けていきたいな」というふうに思ってもらえるようなまちづくりをこの10年目指していきまして、そういう意味では、やっぱり教育っていうのはすごく重点的な、第一の取り組みに挙げています。

そして、これまでは、基礎的な知識をしっかりとおさえましょうということで「学力向上クリエイト事

業」というのをずっとやってきたんですけれどもね、ちょうどこのところは全国平均に追いついてきたなという結果が調査で出てきているんです。そこで平成 25 年度は、さらに今度は応用力の方ですね、もっとそういった基礎的な知識をうまく活用していく、そういった力を身につけてもらうということを目指しまして、事業を拡充しました。具体的には、放課後・土曜日にまた学習会をやっていたり、授業の方もですね、先生方のレベルアップを図ってもらうような、専門家による教員指導にも取り組んでいきます。

それと、平成 27 年度から高校の入試の方法が変更になるんです。今は尼崎市で一つの学区なんですよ、ところがこの学区が再編をされて、拡大をされるんですね。もっと幅広いところに尼崎市の人も受験ができるし、逆に西宮や伊丹の人が尼崎の高校を受験することが、平成 27 年度からできるようになるんですね。そういった新たな入試の方式を控えてですね、進路対策事業も来年度から緊急対策として実施をしていきます。具体的には中学 3 年生を対象として、学力調査、テストですね、しっかりやってですね、まず自分の弱いところを把握してもらい、そしてそれを踏まえて、また放課後や土曜日、夏休みにしっかりと集中して学習できるような環境を整えていこうという、事業もやっていきます。

DJ(林)

わかりました。その効果に期待しております。

さて次に、この番組でも、いつも尼崎の魅力的なところやイベントをご紹介しますけれども、尼崎の魅力をもっと多くの人に知ってもらうような取り組みもありますか。

市長

はい。もちろんです。これまでもこの番組で、シティプロモーション推進部という新しい部署をつくったことをご紹介しますけれども、25 年度も色々な仕掛け、取り組みをしていきます。そのうちの一つとしては「シティプロモーションサミット」を尼崎市で開催しようと思っています。これはですね、すでに先輩格で色々な取り組みをしていらっしゃる自治体から、ご参加をいただいて、私たちもシティプロモーションについて学ばせてもらったり、お互いにまた意見を交流したり情報を交換をして、さらに磨きをかけていくような、そういったイベントを計画をしています。

また、尼崎の魅力を分かりやすくまとめたウエルカムムービーを作って、例えば、これからまた新しいマンションの建設等々、色々な地区で予定されているんですけれども、そういったモデルルームなんかでも、ぜひご覧いただけるような、そんな取り組みもしていきたいと思っています。

さらにですね、色々な映画のロケなんかにも使っていただいている文化財収蔵庫、ここを改修をしまして、小学生なんか来たときに教室で色んなことを勉強してもらえようようなスペースを充実をさせたり、郷土画家である白髪一雄さんの作品を常設展示するようなスペースを総合文化センターに設けていきたいというふうに計画をしています。

これまで以上に、尼崎の地域資源をしっかり PR をして多くの人達に足を運んでいただきたいと思っています。

DJ(林)

そうですね。取り組みの結果、尼崎を好きな人がもっともっと増えるとうれしいですね。

さて、次に、尼崎市は以前から環境問題を重視して取り組んできていると思いますが、25 年度の取り

組みで特に紹介したいことはありますか。

市長

はい。尼崎市では、経済と環境を共生させて地域経済を活性化していこうという、先ほどの総合計画の趣旨にもかなう形で、これも重点課題として取り組んでいこうとしているんですけども、平成 25 年度は、小規模の産業用太陽光発電設備の導入を促進していこうと、尼崎は、家庭用はずいぶん普及してきたんですけども、もう少し、メガワットソーラーまではいかないんですけども、家庭用よりはワット数の大きい産業用の太陽光発電の導入を促進をしていきたいと思っております、その設備にかかる固定資産税の課税免除を平成 25 年度に実施をしていきます。

これは、実は国の方で固定資産税の 3 分の 1 を免除する制度があるんですけども、市の方で、残りの 3 分の 2 を免除して、新しく導入する方には、一定期間、3 年間なんですけれども、固定資産税が全額免除になるような形で、後押しをしていきたいというふうに思っています。そして、こういった制度を活用して導入していただいたら、今度は災害の時なんかの、電力の確保にご協力をいただくような、そういった取り組みを計画しています。

DJ(林)

そうですね。都市部ではなかなかメガソーラーの導入は難しいでしょうからね、小規模太陽光発電の分散設置が進めば、都市部での太陽光発電システム導入促進のモデルケースとなりそうですね。

市長

そうですね。そして、設置をする施工業者は当然市内業者の方をお願いをしていこうと思っております。

DJ(林)

はい。さて、市では以前に「事業仕分け」ならぬ、「公開事業たな卸し」をしていましたけれども、その結果は予算に反映されましたか。

市長

はい。様々なご意見をいただきまして、見直しにさらに時間がかかる事業もあるんですけども、25 年度に大きく見直しをしたものとしましては、第 2 次救急医療の補助金があります。これはですね、国のやっていた「事業仕分け」というと、いかに予算を削るかということがね、注目の的だったと思うんですけども、ご指摘をいただいて、削るものも、中には出てくると思うんですけども、この 2 次救急については、そもそも、補助金の積算方法がどうなっているのか、本当に尼崎でも救急車のたらい回しが課題になっていた訳なんですけれども、本当に市民の命を守るためには、こういったことが今、足りていないのか、そういったところを随分たな卸しでもご議論いただきました。その結果、医師会とも協議をしまして、365 日、まず診療科目ごとに必ず専門のお医者さんにいていただく、そして空きベッドも必ず確保をしていただいて、そして実際に受け入れていただいた場合に、補助金を出すというふうなんです、随分と補助金の考え方も改めた上で、医師会の方にも具体的に体制をとっていただいた上で、予算を大幅に拡充をすると、というような形にさせていただきました。色々なご意見を反映させた見直し

ができたというふうに思います。

DJ(林)

わかりました。稲村市長、本日もありがとうございました。

市長

ありがとうございました。